

障害児の放課後支援の今とこれから

—全国調査（自治体調査・保護者調査）報告書—

目 次

はじめに	1
第Ⅰ部 自治体調査	3
全国市町村における学齢期の障害のある子どもの放課後支援制度の現状と課題 —2007全国市町村アンケート調査結果—	
第1章 調査の概要	4
1. 目的	
2. 調査の内容	
3. 対象と方法	
第2章 調査結果の概要	6
1. 回答数	
2. 実施している事業	
(1) 一般施策	
(2) 自立支援事業—介護給付	
(3) 自立支援事業—地域生活支援事業	
(4) 自治体単費事業	
第3章 日中一時支援「日帰りショート」	10
1. 実施事業所数	
2. 報酬単価	
(1) 「軽度」の場合—4時間未満で840<1188<2540—	
(2) 「中度」の場合—4時間未満で1230<1579<3010—	

- (3) 「重度」の場合—4 時間未満で1590<1949<5000—
- (4) 障害の区分無し of 自治体—4 時間未満で260<2065<5000—
- (5) 重症心身障害の場合—4 時間未満で2658<5570<12000—
- (6) 遷延性意識障害の場合—4 時間未満で3000<3529<7000—
- (7) 送迎加算—200<645<1840—
- (8) 入浴加算—400<415<1000—
- (9) 食事加算—400<415<1000—
- (10) 児童デイサービス I・II 型との比較

第 4 章 日中一時支援「タイムケア事業」 21

- 1. 実施自治体数
- 2. 実施事業所数
- 3. タイムケア事業の予算

第 5 章 自治体の単費施策 23

第 6 章 放課後施策と市町村 29

—暮らしを築く基礎自治体としての市町村を運動と実践、交流の拠点に—

- 1. 障害者自立支援法と障害のある子どもの放課後支援
- 2. 市町村が市民の暮らしの条件整備に「責任を持た／てない」システム
- 3. 市町村を「越境」してサービスが展開するシステム
- 4. 行政を改革していくチカラに「結びつき辛い」システム
- 5. 何に依拠するか—実態と実践で理解と信頼の連鎖を—

第 II 部 保護者調査 39

全国における障害のある子どもと家族の放課後・休日の現状と課題
—2007全国保護者アンケート調査結果—

第 1 章 調査の概要 40

- 1. 調査の目的
- 2. 調査の方法と体制
- 3. 回答状況

第 2 章 調査結果の概要 43

1. 4539人の保護者調査からみる全国の実態

(1) 回答者の属性

- ①回答者数
- ②回答者の在住都道府県
- ③子どもの在籍する学校・学級
- ④子どもの学年
- ⑤主な障害と介助の程度
- ⑥同居家族
- ⑦父親・母親の仕事
- ⑧家族単位でみた就労形態

(2) 全国的にみた支援利用の実態

①支援の利用の有無

- a. 全体でみた支援利用の有無
- b. 学校別にみた支援の利用の有無
- c. 学年別にみた支援の利用の有無
- d. 主な障害別にみた支援の利用の有無
- e. 介助の程度別にみた支援の利用の有無
- f. 同居家族別にみた支援利用の有無
- g. 就労の形態別にみた支援利用の有無

②利用している支援

- a. 全体でみた利用している支援
- b. 学校別にみた利用している支援
- c. 学年別にみた利用している支援
- d. 主な障害別にみた利用している支援
- e. 介助の程度別にみた利用している支援

③最も必要としている支援

- a. 最も必要としている支援(実際に支援を利用している保護者の回答)
- b. 全ての回答からみた最も必要としている支援(実際には支援を利用していない保護者も含む)
- c. 学校別にみた最も必要としている支援
- d. 学年別にみた最も必要としている支援
- e. 主な障害別にみた最も必要としている支援
- f. 介助の程度別にみた最も必要としている支援

④支援の利用の目的(3つまで回答)

- a. 支援の種類別にみた利用の目的
- b. 全体からみる支援の利用の目的

- c. 学校別にみた支援の利用の目的
- d. 学年別にみた支援の利用の目的
- e. 主な障害別にみた支援の利用の目的
- f. 介助の程度別にみた支援の利用の目的

⑤支援の利用に関する困りごと（3つまで回答）

- a. 支援の種類別にみた利用に関する困りごと
- b. 全体からみた支援の利用に関する困りごと
- c. 学校別にみた支援に関する困りごと
- d. 学年別にみた支援に関する困りごと
- e. 主な障害別にみた支援に関する困りごと
- f. 介助の程度別にみた支援に関する困りごと

⑥支援を利用していない理由

- a. 全体でみた支援を利用していない理由
- b. 学校別にみた支援を利用しない理由
- c. 学年別にみた支援を利用しない理由
- d. 主な障害別にみた支援を利用しない理由
- e. 介助の程度別にみた支援を利用しない理由

⑦今後の充実・改善を期待する支援（2つまで回答）

- a. 全体でみた今後の充実・改善を期待する支援
- b. 学校別にみた今後の充実・改善を期待する支援
- c. 学年別にみた今後の充実・改善を期待する支援
- d. 主な障害別にみた今後の充実・改善を期待する支援
- e. 介助の程度別にみた今後の充実・改善を期待する支援

2. 自治体ごとにみた実態

- (1) 鹿児島県
- (2) 岐阜県
- (3) 大阪府
- (4) 京都市
- (5) 静岡市
- (6) 放課後・休日の支援をめぐる実態の多様性と要求の共通性
 - ①全国の実態は今回の調査結果よりも厳しいと考えられます
 - ②利用できる支援がほとんどない地域もあります
 - ③最近10年間をみても支援は広がってきています
 - ④支援の実態は地域によって多様です
 - ⑤地域が違い、現状が違って、基本的な要求は同じです

第3章 子どもたちの変化…………… 114

1. 子どもたちの育ち

(1) 子どもの生活状況や環境の変化

- ①子ども達がたくさんの人と接することができるようになりました
- ②家庭ではできない体験や体を使う活動に参加できるようになりました
- ③子どもの居場所ができ、生活にメリハリができています
- ④同性介護を受けることにより、外出先が広がりました

(2) 子ども自身の変化

- ①楽しい！満足した！表情も豊かに。子どもに楽しみができました
- ②しっかり外で活動することで、気持ちも体も満足。帰宅後の様子も落ち着きました
- ③子ども同士の関係ができ、その中で成長しました
- ④人への関心が膨らみ、新しい人（場面、場所も）を受け入れやすくなりました
- ⑤伝えたい、理解したい…コミュニケーションの力も太りました
- ⑥我慢することや、自分でやってみようとする心が芽生えました
- ⑦子ども自身の遊び、活動の幅が広がりました
- ⑧いろいろな活動や取り組みを通して自信がつけました
- ⑨見通しが持ちやすくなり、生活習慣、生活リズムもついてきました
- ⑩公共機関の利用方法や公共の場でのマナーを覚えました
- ⑪お手伝いや家事など生活の場でも積極的になりました
- ⑫着替えやトイレ等身辺自立もすすみました
- ⑬食生活の広がり
- ⑭体力、健康など身体面での改善
- ⑮物事の理解や学習面での力がつけました

(3) 保護者自身にもよい変化が生まれています

- ①子どもを理解、指導してくれる人＝子育ての応援者が増えました
- ②時間や気持ちにもゆとりができました

2. 困った変化

(1) 子どもの行動に困った変化があります

- ①覚えてほしくない事や乱暴な言葉をマネするようになりました
- ②わがママが増えました
- ③活動中に何をしても許される・職員の目が行き届かないなどがあり、甘えや自立面の後退がみられます
- ④活動中にケガをする（させられる）ことがあり、不安です
- ⑤大人に慣れすぎて、知らない人にでもついていくようになりました

- ⑥お金を使うことを覚えました、管理が不十分なため困っています
- (2) 子どもの様子が不安定になっています
 - ①人とかかわることが苦手不安定になっています
 - ②他の子どもや大人と相性が悪く、不安定になっています
 - ③事業所や場所・関わる人の変化に慣れず、不安定になっています
 - ④思ったときに利用できないと不安定になります
 - ⑤帰宅後に不安定になります
 - ⑥集団や人ごみ・大きな音が苦手不安定になります
 - ⑦過密スケジュールに疲れて不安定になっています
 - ⑧子どもが利用を嫌がることがあります
- (3) 支援の利用環境や内容に不安を感じています
 - ①活動内容が乏しく、子どもに適していません
 - ②年齢に適した活動ができていないと感じます
 - ③支援者の数が少なく、内容が不十分になるだけでなく危険です
 - ④利用できる事業所の数・時間・日数が少ないです
 - ⑤指導員には専門的な知識や対応が必要です
 - ⑥場所が狭いので子どもがストレスを抱えています
 - ⑦保護者の負担が大きすぎます
 - ⑧活動中の様子が伝わってこないのが不安です
 - ⑨異性介護をなくしてほしい、男性職員が必要です
 - ⑩様々な支援を組み合わせなければならず不安定です
 - ⑪健常児とのかかわりが欲しいです
 - ⑫支援利用に慣れるのが大変です

第4章 私たちが求める放課後・休日の支援…………… 167

1. 社会資源の充実

- (1) 十分な量の支援がほしい
 - ①事業所数や受け入れ人数を増やしてほしい
 - ②日数を増やしてほしい
 - ③時間を延長してほしい
 - ④安定して毎日通えるようにしてほしい
- (2) 休日の活動
 - ①休日にも支援がほしい
 - ②きょうだいのための時間も必要です
 - ③休日が仕事のこともあります
- (3) 長期休暇の活動

- ①長期休暇の活動を充実させてほしい
 - ②就労のためにも長期休暇の活動が必要です
 - (4) 急なときでも利用できるようにしてほしい
 - ①予約制では難しいこともあります
 - ②家族の病気や急用のときの支援が必要です
 - (5) 自宅の近くに活動の場がほしい
 - (6) 送迎を行ってほしい
 - ①送迎つきの支援がほしい
 - ②学校—自宅の間の送迎
 - (7) 就労保障
 - ①就労保障の強い要求があります
 - ②現状には課題があります
 - ③長期休暇の支援が重要です
 - ④ひとり親家庭の要求はとりわけ切実です
 - (8) 経済的負担の軽減が必要です
 - (9) 必要な支援はすべての年齢の子どもにほしい
 - ①中高生にも支援は必要です
 - ②学校卒業後の余暇支援も大切です
 - (10) 必要な支援がどんな障害の子どもにもほしい
 - ①医療的ケアへの対応も必要です
 - ②障害の軽い子どもへの支援も求められます
 - (11) 自由に行ける活動の場がほしい
2. 活動内容の充実
- (1) 単なる「預かり」「見守り」ではない豊かな活動がほしい
 - (2) 子どもの年齢に応じた活動がほしい
 - (3) 体を動かす活動がほしい
 - (4) 趣味や特技を広げる活動がほしい
 - (5) 学習の支援もあるとよい
 - (6) 宿泊をとまなう活動もほしい
 - (7) 障害のない子どもと一緒に過ごせる場がほしい
 - (8) きょうだい参加・親子参加の機会もほしい
 - (9) スタッフ体制の改善も重要です
3. 各事業・各活動の充実
- (1) 学童保育
 - ①学童保育への受け入れを進めてほしい
 - ②受け入れ学年を広げてほしい

- ③保護者の就労に関わりなく受け入れてほしい
- (2) 児童デイサービス
- (3) 障害児タイムケア事業
- (4) 障害児学童保育
- (5) 学校の部活動
 - ①部活動がほしい
 - ②学校での放課後活動がほしい
- (6) ガイドヘルプ・ホームヘルプ
 - ①ヘルパーが不足しています
 - ②時間数が足りません
 - ③支援内容の制約を改善してほしい
 - ④1対1ではない支援もほしい

第5章 保護者調査まとめ	228
1. 放課後・休日の支援の実態と課題	
2. 実態の多様性と要求の共通性	
3. 子どもの生活と発達が豊かになっている事実の共有	
4. 不安定の連鎖をのりこえる	
5. 求められる制度・活動のイメージ	
おわりに—二つの全国調査を実施して—	233
資 料	241
1. 自治体調査アンケート用紙	
2. 保護者調査アンケート用紙	